

令和7年度学校評価シ－ト

1 学校教育目標

(1) スクール・ミッション  
 「自己を知り 自己に培い 社会を知り 社会を愛せ」の理念のもと、確かな学力、主体性・協調性、課題発見・解決能力、論理的思考・判断力、コミュニケーション能力を備え、グローバルな視点で地域の魅力を伝える発信力を発揮し、地域の課題解決に貢献できる人材を育成する。

(2) スクール・ポリシー（三つの方針）  
 ア 育成をめざす資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）  
 (ア) 自ら目標を定め、未来を切り拓く力を育成する。  
 (イ) 地域の課題解決や地域に貢献できる力を育成する。  
 (ウ) グローバルな視点と地域の魅力を発信する力を育成する。  
 イ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）  
 (ア) 多様な生徒の基礎基本の定着を図るため、習熟度別学習・少人数授業・同室複数指導を実施する。  
 (イ) 課題発見・解決能力や論理的思考・判断力を育成するため、地域と連携した探究活動等を実施する。  
 (ウ) 発信力やプレゼンテーション力を育成するため、ICT活用授業の研究推進の取組を実施する。  
 (エ) 主体性・協調性・コミュニケーション能力を育成するため、海外を含む外部機関等と連携して実践的・体験的な学びを実施する。  
 ウ 入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）  
 (ア) 何事にも誠実に向き合い、文理横断的・探究的な学びへの興味や関心があり、主体的に活動する意欲を持つ生徒を募集する。  
 (イ) 互いに認め合い、高め合う意欲を持つ生徒を募集する。  
 (ウ) 学習だけでなく、特別活動や部活動など、自らの目標に向かって最後までやり抜く生徒を募集する。

2 重点目標

ア 第4期「ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育基本計画）」の基本理念「兵庫が育むこころ豊かで自立する人づくり」の実践に向け、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育成することに加え、キャリア教育、特別支援教育を含め、総合的に「生きる力」を醸成し、「『絆』を深め、『在りたい未来』を創造する力」を育成する。

イ 文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の指定の成果をさらに深め、持続可能なふるさとづくりのための人づくりを推進する。「観光・グローバル類型」（全県から生徒募集）と「地域探究類型」では、生野銀山や竹田城など観光資源豊かな朝来市にある本校から、グローバルな視点とともに地域の魅力を伝えられる発信力を持った人材や地域の課題解決に向けた提案がてきる人材を育成する。

ウ 「自ら考え、未来を切り拓いていくことができる生徒」「地域を愛し、地域の担い手となる生徒」「グローバルな視点を持ち、自らの言葉で語るることができる生徒」を育成する。

3 学校評価結果（5…よくできた 4…できた 3…どちらともいえない 2…あまりできなかった 1…できなかった）

分野	評価内容	評価					学校の取り組み状況・改善の方策	学校関係者評価
		R7 教職員	R7 保護者	R7生徒	R6	R5		
①基本的生活習慣の確立	挨拶の励行、交通マナーの向上など社会性の育成や、基本的生活習慣の確立	3.8	4.0	4.0	3.5	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生野駅周辺で本校生徒に対する苦情が多かったため、朝の挨拶運動と同様の形での下校指導が必要かもしれない。</li> <li>・生徒指導部の朝の取り組みや交通マナーの周知はR6以前より行われている。生活習慣は特に遅刻について頻度の高い生徒が存在し、それに対する声掛けは行われている。生徒の様相が様々なので、一律指導は難しい。マナーや生活習慣の具体的な方法論の指導より、自分を客観視できるような取り組み・指導が好ましいと考えられる。</li> <li>・教員の負担にならない程度に立ち番指導をしてはどうかと思う。</li> <li>・駅の使い方が問題になることがあったため、1学期にあったような立ち番をほかの学期にやってもよいのではと感じた。</li> <li>・地域から苦情も数件あった。見回りを実施を検討したい。見回りの時だけよく過ごすとならないよう、社会性の育成、意識づけも重要である。「やった、やっている」「自分ではできている。関係ない」思っている人が多いと思うが、実際に出来ていない部分が多いと思うのでそこも声掛けや指導をしたい。</li> <li>・本校は進学のみならず、就職者も多いため、遅刻・欠席は進路選択に特に悪影響を与えたと考える。1年次からその点を指導して、生徒たちに意識を持たせ、手遅れにならないよう心がける。また、地元就職者も少なからずいる中、駅の利用マナーが悪いことは、本校にとって不利益しか生まない。見回りを強化し、該当生徒を特定し、再防止のために指導したい。</li> <li>・生野駅の利用に関して苦情があったので、生徒も地域の人も気持ちよく過ごせるよう、電車や駅での見回りをさらに行うべき。</li> <li>・各学期始まりの交通立ち番は安全のために今後も続けるべきだと思います。地域の方からたびたび駅の使用のしかたでご注意を受けることがあり、定期的な見守りが必要だと感じています。</li> <li>・生野駅のマナーなど、何度も苦情が入れられており、「生野高校生がじゃまだ」「生野高校生はマナーが悪い」と一緒に扱われてしまう生徒が気の毒だ。地元の方の視点、駅利用者の視点…と様々な視点から自分の行いを考えてほしい。</li> <li>・交通安全週間の立番など、以前実施されていたと思います。小・中学校、地域の企業でも実施されているので、生野高校も取り組んでみてはどうでしょうか。</li> <li>・生徒昇降口の下足箱の使い方について・グラウンドシューズの土は落とすこと、靴やスリッパは揃えてかかとを靴箱の端に揃えるなど</li> <li>・本校では挨拶運動を行っていないので、行うのはどうか。</li> <li>・下駄箱に携帯を置いておくかを設置することにより、校則違反を減らすのはどうか。</li> <li>・始業式・終業式だけでなく、日ごろから生徒指導部より交通マナーについて周知されている。</li> <li>・交通マナーについて、生徒がより自分事として捉えられるような指導が良いのではないかと。</li> <li>・すれ違いに挨拶をする生徒とすれ違っても挨拶をしない生徒が見られたので、常に挨拶をするような取り組みを何か入れれば良いかと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぜひ学校をあげて“あいさつ運動”に取り組んでいただきたい。</li> <li>・生野駅で「生野高校生がじゃま」と言う人にも問題があると思います。自分の子ども、自分の孫がそこにも同じ態度をとるでしょうか？みんなで育てる気持ちがあるかないか。地域の方々との交流の場もあるが、お互いに理解しようとする努力が必要。</li> <li>・登校時、声をかければあいさつは返ってくる。以前、PTAであいさつ運動を行っていたが、現状では無理なのか。</li> <li>・苦情が多いのは学校にとって不利益ではない。常に見られている意識を自発的に！</li> <li>・あいさつは基本的な事なので重要</li> <li>・生野駅周辺での生徒の利用マナーについて、地域からの声がある中、あいさつ運動や見回りなど学校として改善に向けた取組を行っている事は素晴らしいと思います。一方で駅利用時のマナーの乱れは学校全体の印象だけでなく利用者とのトラブルや事故など生徒自身にとっても不利益につながる恐れがあるため、そのようなリスクについて生徒に理解を促すことも有効ではないでしょうか。</li> </ul>
②自ら目標を持って学ぶ力の育成	目的意識を持った学校生活や行事への取り組み	4.1	4.2	4.0	3.9	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年やキャリア教育部による指導を通じて、進路に対する目的意識を持ち始めていると思う。探究活動では課題解決型の学びが実践できているので、各教科の授業にも還元していきたい。部活動については、そもそもの生徒数が少ないこともあり、従来の大会を目指すスタイル以外のあり方を模索すべきと考える。</li> <li>・探究活動の取り組みは、広報機会の多さから、教職員・保護者・生徒の目に触れていることで高い数値である。部活動は生徒の実情に合わせた指導となっている。従来の部活動との価値観の変化から、保護者および教職員の数値が低いと考えられる。活性化という問いを変更すると、数値が変化すると考えられる。</li> <li>・ゆめいくについて、担当者会議を開催するなどして学校全体で歩調を合わせて進めていると思う。担当者や他学年の教員も交えて計画を立てているため、やる側としてやりやすい。</li> <li>・人数が少ない部については、同好会などの扱いを新たに設け、部費配分などに差をつけてもよいと思う。</li> <li>・生徒数は少ないが、部活動をもっと活性化したい。</li> <li>・探究では各班に教員が付き、生徒の様子に応じた支援ができていると感じる。</li> <li>・部活動は部員の人数に合わせて数を減らすなどしていったほうが良いと思う。一方で、生徒がやりたいと思える活動ができるよう、同好会などの設立をもっと促してもよいのでは。</li> <li>・部活は小規模のなかでもできることを考え、できるだけ減らさず選択肢は保てたらと思う。中学の部活地域移行のことも頭に入れて検討する必要がある。</li> <li>・探究活動は考えを深めるだけでなく、地域とのつながりもでき、良いと思う。</li> <li>・部活動に真摯に取り組む者が少ないため、面接指導の際、探究活動という授業以外で、努力している活動が話せない者が多かった。部活動が持つ意義について、入学時に理解させ、人数に関わらず、物事に一生懸命に取り組む姿勢を身につけさせたい。</li> <li>・少人数グループによる探究活動が行われており、非常に良い取り組みだと思う。</li> <li>・部活動に関して、生徒数の減少に応じて部の数を減らしていくべき。</li> <li>・市役所をはじめとした地域の機関の方々やPTAのサポートもあり、生徒が積極的に学校行事や探究に取り組める体制がとれていると思います。部活動は人数の制限がある中でできる限りのことがされていると感じています。特に文化部の活動は、探究活動と同じく、地域の行事にも参加して活発に行われていると思います。</li> <li>・学校全体を通して探究活動を行っていたと思います。</li> <li>・部活動を精選していく時期が来ているかと思っています。人数が足りず、助っ人を頼みながらの部活動には限界があるかと思っています。</li> <li>・部活動について、生徒数の減少から、大会等への参加が難しく、練習への気持ちは生徒・教職員ともに乗り切っていないのではないかと。</li> <li>・部活動の数や活動の方針について、もう少し考えると良いのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の問題については、生徒数の減少と直結している。中学校と同じ。</li> <li>・課題解決型の学び、探究活動の推進の評価が良いので、ここに重きを置いて進めてはどうでしょう。</li> <li>・ゆめいく活動は素晴らしいと思う。地域の評価も高い。</li> <li>・小規模校なので、部活動に課題がある。同好会活動は検討の余地あり。</li> <li>・生徒数は少ないが、生野はばく大な資料も遺る。それを地域の為に活かしてほしい。チャンスは多くある。</li> <li>・旧体育館イベントがあったが、全校で応援して取り組み、引継ぎをする。</li> <li>・キャリア教育や探究活動を通じて、生徒が目的意識を持って学校生活や行事に取り組めるよう指導している点は大変意義があると感じます。特に課題解決型の学びを取り入れた探究活動は、これからの社会で求められる主体的な学びの姿勢を育てる上でも重要であり、各教科の学習へも広がっていくことを期待します。</li> </ul>
	課題解決型の学び、探究活動の推進	4.6	4.5	4.4	4.4	4.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動に真摯に取り組む者が少ないため、面接指導の際、探究活動という授業以外で、努力している活動が話せない者が多かった。部活動が持つ意義について、入学時に理解させ、人数に関わらず、物事に一生懸命に取り組む姿勢を身につけさせたい。</li> <li>・少人数グループによる探究活動が行われており、非常に良い取り組みだと思う。</li> <li>・部活動に関して、生徒数の減少に応じて部の数を減らしていくべき。</li> <li>・市役所をはじめとした地域の機関の方々やPTAのサポートもあり、生徒が積極的に学校行事や探究に取り組める体制がとれていると思います。部活動は人数の制限がある中でできる限りのことがされていると感じています。特に文化部の活動は、探究活動と同じく、地域の行事にも参加して活発に行われていると思います。</li> <li>・学校全体を通して探究活動を行っていたと思います。</li> <li>・部活動を精選していく時期が来ているかと思っています。人数が足りず、助っ人を頼みながらの部活動には限界があるかと思っています。</li> <li>・部活動について、生徒数の減少から、大会等への参加が難しく、練習への気持ちは生徒・教職員ともに乗り切っていないのではないかと。</li> <li>・部活動の数や活動の方針について、もう少し考えると良いのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育や探究活動を通じて、生徒が目的意識を持って学校生活や行事に取り組めるよう指導している点は大変意義があると感じます。特に課題解決型の学びを取り入れた探究活動は、これからの社会で求められる主体的な学びの姿勢を育てる上でも重要であり、各教科の学習へも広がっていくことを期待します。</li> </ul>
	部活動の活性化	3.2	3.3	3.5	3.4	2.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教員が、日々の生徒指導に人権意識を持って臨み、そこから生徒の人権意識が高揚していけばなお良い。</li> <li>・例年同様、人権HR関連の取り組みが見えない。取組をカテゴリ化して見せる、年間計画の共有等があれば周知できるのでは。</li> <li>・人権HRを計画実施できなかった。</li> <li>・平和教育や自己表現を促す教材に対し、生徒は素直に反応を示していると思います。しかし、日常の中でクラスメイトに雑な言葉遣いをする生徒もおり、人権HRだけでなく日常の中でも呼びかけていく必要があると思われます。</li> <li>・今年度も植松努氏や東田太郎先生をお招きして、講演会にて人権意識を高めることができたと思う。</li> <li>・各学年で人権に関する意識を高める学習をもっとできたらいいと思う。</li> <li>・人権HRに関する計画等が共有しきれていない。年間計画の共有に力を入れるべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育は基本であるので、計画・実施に向けしっかり取り組んでもらいたい。</li> <li>・相手の立場を理解し尊重する意識の高まりに期待。</li> <li>・人権教育は多岐にわたるので、意志・取り組みのアップデートが必要である。</li> <li>・教育講演会はテレビで見たが、素晴らしい企画でした。続けてほしい。</li> <li>・人権HRを通した人権意識の高揚は、生徒が互いを理解し尊重する態度を育てる上で重要なとりくみであると感じました。相手を思いやり礼節を持って接する姿勢は社会に出ていく生徒にとって不可欠であり、今後も継続した取り組みを期待します。</li> </ul>
③人づくりの基盤としての道徳性の育成	人権HRを通した人権意識の高揚	3.9	4.2	3.9	3.8	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教員が、日々の生徒指導に人権意識を持って臨み、そこから生徒の人権意識が高揚していけばなお良い。</li> <li>・例年同様、人権HR関連の取り組みが見えない。取組をカテゴリ化して見せる、年間計画の共有等があれば周知できるのでは。</li> <li>・人権HRを計画実施できなかった。</li> <li>・平和教育や自己表現を促す教材に対し、生徒は素直に反応を示していると思います。しかし、日常の中でクラスメイトに雑な言葉遣いをする生徒もおり、人権HRだけでなく日常の中でも呼びかけていく必要があると思われます。</li> <li>・今年度も植松努氏や東田太郎先生をお招きして、講演会にて人権意識を高めることができたと思う。</li> <li>・各学年で人権に関する意識を高める学習をもっとできたらいいと思う。</li> <li>・人権HRに関する計画等が共有しきれていない。年間計画の共有に力を入れるべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育は基本であるので、計画・実施に向けしっかり取り組んでもらいたい。</li> <li>・相手の立場を理解し尊重する意識の高まりに期待。</li> <li>・人権教育は多岐にわたるので、意志・取り組みのアップデートが必要である。</li> <li>・教育講演会はテレビで見たが、素晴らしい企画でした。続けてほしい。</li> <li>・人権HRを通した人権意識の高揚は、生徒が互いを理解し尊重する態度を育てる上で重要なとりくみであると感じました。相手を思いやり礼節を持って接する姿勢は社会に出ていく生徒にとって不可欠であり、今後も継続した取り組みを期待します。</li> </ul>

分野	評価内容	評価					学校の取り組み状況・改善の方策	学校関係者評価
		R7 教職員	R7 保護者	R7生徒	R6	R5		
④主体的に学ぶ態度や学習習慣の育成	・ 家庭学習習慣及び自ら学ぶ姿勢の確立	2.8	3.4	3.2	3.4	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宿題自体が少なくなっていることもあるが、その少ない宿題・課題も満足にこなせているとは言えない状況だと思っている。こういった宿題や課題に取り組む意義や目的を、生徒に分かってもらえるようにしていきたい。</li> <li>・ 高校入学に至るまで、学習への外発的動機づけの機会が少ない生徒が多い印象。課題を出している先生もおられるが、課題を提出させることが目的化している部分もある。学習に対して外発・内発問わず動機づけを促す・強化するような取り組みが必要。自ら学ぶ意欲と能力が高くないので、進路・キャリア意識や探究学習等からアプローチし、刺激できれば。</li> <li>・ 部活動に所属していない生徒対象の水7補習をしてはどうかと思う。自習でもいい。</li> <li>・ 各教科で、課題や小テストを通じて家庭学習の定着が図られている。しかし、提出率や定着率はあまり高いとは言えず、工夫の余地があると感じている。</li> <li>・ 提出物を出せばいい、答えの丸写しが多いと思う。小テスト、定期考査、模試の結果で顕著にわかる。模試0点という教科も多くあり、生徒はどのように思っているか（純粹に難しいのか、適当にやっているのか、危機感などは感じているのか）</li> <li>・ 授業内での課題提出、考査期間でのノート提出を課しているが、未提出・紛失が多く、再提出を促しても更生が見られない者がいる。そのような者たちに無条件に救済のための追認考査を受けさせていては、教員の負担が増える一方である。そのため、提出物はこなすが考査素点が極めて低い者を追認の対象にするなど、生徒の学習状況に応じて対応すべきだと感じる。</li> <li>・ スタサブの利用など生徒の家庭学習を支援するツールはあるものの、生徒の家庭学習時間は少ないと感じる。</li> <li>・ 家庭学習に取り組む時間が少なく、生徒の自主性に任せているは改善しないと思われる。課題の量や種類が多いと取り組むのが困難な生徒もいるため、各教科で調整して課題を課するなど工夫が必要かと思われる。</li> <li>・ 宿題は出すが、提出率が低い。休み時間等に声掛けをしても、なかなか改善されない。各教科や教員が個別に対応するのはなく、学校全体で底上げが必要ではないかと思う（未提出の生徒を放課後残し、その監督を交代で行う、など）</li> <li>・ 教科書、ノート等を持ち帰っていないため、家庭学習ができるとは思えない。置き勉を禁止するべきではないかと思う。</li> <li>・ 授業前に教科書ノートを出しておく、家で時間割を合わせる、宿題を把握しておく、などの基本的な学習習慣ができていない生徒が増えているのではないかと。全体で徹底する事柄を決めて、共有する必要があると思う。（教務部の申し合わせ事項がそれにあたるところだが、文言が現状に合っていないところや、書かれてはいても徹底できていないことがある）</li> <li>・ 自走できる学びができるように、グロースナビの活用をスタートできればと思います。</li> <li>・ 本校は国語、数学、英語を中心として小テストを頻繁に行っていると思う。</li> <li>・ 課題はテスト時以外で出す教科がとて少ないため週末課題を増やすのはどうだろうか。</li> <li>・ 各教科担当から課題を出されているが、家庭学習習慣の確立には至っていない。進んで学習するような指導ができれば良いが、難しい。ただ、教職員側から働きかけることで外発的ではあるが、動機付けができる部分もあるのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT機器を活用した家庭学習を取り入れては？</li> <li>・ 家庭での勉強は、意識の高い人はすると思いますが…</li> <li>・ 学校での補習などの方が良いのではないかと思います。</li> <li>・ 家庭学習の習慣は難しいが、できている生徒からその方法などについて学ぶことも必要。</li> <li>・ 学生の本分は勉強です。</li> <li>・ 生徒自身が宿題や課題に取り組む意味や意義を理解しなければ難しいとおもいます。</li> </ul>
⑤進路希望の実現	・ 進路実現のためのカリキュラム設定	3.8	4.2	4.0	3.7	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学受験を意識したカリキュラム（特に理系）になっていることはいいが、本校の生徒層にややミスマッチな感がある。週の総時間数も含めて再検討してもいいのではないかと。</li> <li>・ 進路指導については、キャリア教育部が力を入れてくださっていると感じる。家庭への情報提供は、保護者が何を求めているかを学年を通してキャリア教育部へ情報共有した上で、進路説明会などの機会でも提示できるといい。</li> <li>・ キャリア教育の推進は様々な行事やLHR等を通して行っている。課題であった分掌間の情報共有も進んでいる。生徒の実態に応じた教育課程の編成かどうかについては、疑問が残る部分があるとともに、学習指導要領の改訂も見据えて、継続して協議の機会が必要。</li> <li>・ キャリア関係の行事がしっかりと組まれており、生徒が進路決定する助けになっていると思う。一方で、同じクラス内でも進路が多岐にわたるため、キャリア指導が難しいと感じる場面もある。</li> <li>・ 外部講師、ガイダンスなど色んな取り組みをしており良いと思う。</li> <li>・ 希望する学校、会社に入ることも大事だが、その先のことも重要。負担が増えるが、希望する大学に入って何がしたいか、どうなりたいか、大学卒業後どうなっていたいか、現実、社会はどうかなどについて考える機会や講演が増えてもいいと思う。</li> <li>・ 地歴公民科として、地連の生徒たちに必修の科目ではなく、入試に必要とされる世界史探究と日本史探究のどちらかを無条件に受けさせるのは正直酷だと感じる。テストの内容にも制約が生まれ、模試・入試に対応したレベルに設定が難しい。教員の人数・科目数・時間割など制約は多いと思うが、一度検討してもらいたい。</li> <li>・ 定期的なキャリアガイダンスを実施するなど、生徒にとってはよい機会があると思う。一方で、将来像や大学や専門学校を卒業した後のキャリアについて生徒はあまり考えられていないように感じる。</li> <li>・ 大学見学や職場見学、キャリアトークカフェなどの行事を実施しているため、生徒が卒業後のイメージをもちやすい体制がとられていると思います。また、選択科目も多く、生徒が進路に応じた授業を受けられるようなカリキュラム設定になっていると思います。しかし、進路選択の最終的な場面で生徒と保護者間での意見のすり合わせができていない場合もあり、いつまで何を決めなければならぬかをはっきりさせるなど、保護者とのさらなる連携が求められていると思います。</li> <li>・ 長期休みの間に補習を行っていた。</li> <li>・ 生徒の幅広い進路希望に応じたカリキュラムを設定していると思う。</li> <li>・ 特にキャリアと3学年で連携を取って生徒の幅広い進路希望に対応されていると思う。</li> <li>・ 進路だよりの作成</li> <li>・ LHRなどで、進路実現に向けた取り組みが行われている。</li> <li>・ 探究活動も含め、カリキュラムについては、実情や学校の特色・方針に即した形かどうか考える余地もあるのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ になりたい自分を確立することが大事で、そこからバックキャストイングすることを指導すべきでは。</li> </ul>
	・ 進路指導の充実及び家庭への適切な進路情報の提供	4.3	4.1	4.2	4.0	4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 希望する学校、会社に入ることも大事だが、その先のことも重要。負担が増えるが、希望する大学に入って何がしたいか、どうなりたいか、大学卒業後どうなっていたいか、現実、社会はどうかなどについて考える機会や講演が増えてもいいと思う。</li> <li>・ 地歴公民科として、地連の生徒たちに必修の科目ではなく、入試に必要とされる世界史探究と日本史探究のどちらかを無条件に受けさせるのは正直酷だと感じる。テストの内容にも制約が生まれ、模試・入試に対応したレベルに設定が難しい。教員の人数・科目数・時間割など制約は多いと思うが、一度検討してもらいたい。</li> <li>・ 定期的なキャリアガイダンスを実施するなど、生徒にとってはよい機会があると思う。一方で、将来像や大学や専門学校を卒業した後のキャリアについて生徒はあまり考えられていないように感じる。</li> <li>・ 大学見学や職場見学、キャリアトークカフェなどの行事を実施しているため、生徒が卒業後のイメージをもちやすい体制がとられていると思います。また、選択科目も多く、生徒が進路に応じた授業を受けられるようなカリキュラム設定になっていると思います。しかし、進路選択の最終的な場面で生徒と保護者間での意見のすり合わせができていない場合もあり、いつまで何を決めなければならぬかをはっきりさせるなど、保護者とのさらなる連携が求められていると思います。</li> <li>・ 長期休みの間に補習を行っていた。</li> <li>・ 生徒の幅広い進路希望に応じたカリキュラムを設定していると思う。</li> <li>・ 特にキャリアと3学年で連携を取って生徒の幅広い進路希望に対応されていると思う。</li> <li>・ 進路だよりの作成</li> <li>・ LHRなどで、進路実現に向けた取り組みが行われている。</li> <li>・ 探究活動も含め、カリキュラムについては、実情や学校の特色・方針に即した形かどうか考える余地もあるのではないかと。</li> </ul>	
	・ キャリア教育の推進	4.4	4.1	4.2	4.0	4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教員が創意工夫を凝らし、日々臨まれていると感じる。お互いにコマ数に余裕があれば授業見学もやりやすくなると思うが、人数的な難しさがあると感じている。</li> <li>・ 授業の工夫は大半の先生がされていると認識している。「わかる」方向へ改善しているかどうかについては、検証する機会が非常に少ない。「わかっておらず、わかるようになるう」としてないが、担当者から与えられた何かをやっている。」を3観点CCA評価としているケースが散見されるので、評価の方法を再考するところから。</li> <li>・ 授業に関して、若い先生とベテランの先生との意見交換、情報共有などを充実させたい。</li> <li>・ 先生方がそれぞれ工夫をして授業をされていると思う。また、生徒への授業アンケートがあり、授業改善に役立てられる環境がある。しかし、匿名ではないため、生徒の本音は反映されずらいかもしれない。</li> <li>・ 自分自身、授業の工夫はまだ必要だと思うので、改善したい。生徒ができること、活かせることを一つでも増やせるようにしたい。</li> <li>・ 授業公開週間を設けるなどして、授業力強化を行っていると感じる。</li> <li>・ 生徒の学力に応じた授業が実施されていると思います。学年全員が受講する科目も類型別に実施することで、生徒に合った授業がしやすいと感じます。特に、若い先生方がICT機器を効果的に使用し、生徒の興味関心を引き出すような授業を実施されています。</li> <li>・ 公開授業期間の設置</li> <li>・ 先生方は生徒の様子をよく見て、分かりやすく授業改善を行っていると思う。また、職員室でも情報共有されている姿をよく見る。</li> <li>・ 生徒から「分かりやすい」だけではなく、「楽しい」という声も聞く。</li> <li>・ 各教科担当で授業の工夫をされていると感じる。もっと担当教科だけでなく、授業見学をするなど、教職員間で意見あう機会が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 良い評価だと思います。引き続き資質の向上に努めてください。</li> <li>・ 各教師の授業を相互が見学して学び合うことを高めてほしい。</li> </ul>
⑦開かれた学校づくり	・ 家庭への連絡及び情報の積極的提供	4.4	4.2	4.1	4.0	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ きずなネットやHPの利用が活発になり、以前より改善されていると思う。今年度は実現されなかったが、体育大会でのこども園競技はよい行事だと思うので、是非来年は開催しにすれば良いと思います。</li> <li>・ 今年度はインスタ開設もあり、広報機会が増え、家庭連絡は必要に応じて学年で行われている。昨年度から欠席連絡のオンライン化も評価は良いと捉える。地域と連携した行事もいくつかあり、充足している。校内規定の公表や学年通信の配布頻度、配布方法について再考の余地あり。きずなネットで学年から連絡配信を検討してもよい。</li> <li>・ ホームページやインスタグラムがこまめに更新されており、情報発信できていると感じる。</li> <li>・ きずなネットを通じて家庭への連絡を行えているように感じる。</li> <li>・ きずなネットや学校のホームページを使用することで、学校の情報を保護者へ速やかに伝えることができていると思います。必要に応じて電話連絡や面談を実施することで、細やかな連携が取れていると思います。探究や文化部の活動を通して、地域の行事に積極的に参加できていると思います。</li> <li>・ SNSの活用などで積極的に行っていた。</li> <li>・ 学年通信は各学年とも年間10枚以上発行しており、十分な頻度だと思う。</li> <li>・ 何かあった際は小さな事でもしっかりと家庭連絡を行っていると思う。</li> <li>・ ゆめいくでのイベント実施や南消防本部をお招きする防災訓練など地域との連携を図った行事はしっかり行われていると思う。</li> <li>・ 欠席連絡にオンライン化が追加されたことが良かったと感じる。</li> <li>・ 緊急時や行事などの連絡がきずなネットにて行われているが、もっと学年ごとの連絡（学年通信など）に使っても良いのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ HPやSNSの活用により、もっと多くの方に学校に来てもらえるようにすれば良いと思います。</li> <li>・ 欠席連絡のオンライン化で欠席者は増えていませんか？</li> <li>・ 増えていなければ、学校・保護者の負担が減り良い方法だと思います。</li> <li>・ インスタなどのオンライン活用は積極的に行ったら良いと思う。</li> <li>・ 生野交流館文化祭への参加などは、地域と連携できて大変良いと思う。</li> <li>・ 更に更にSNSをご活用ください。</li> </ul>
	・ 地域との連携を図った行事の実施	4.1	4.4	4.4	4.0	4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ きずなネットやHPの利用が活発になり、以前より改善されていると思う。今年度は実現されなかったが、体育大会でのこども園競技はよい行事だと思うので、是非来年は開催しにすれば良いと思います。</li> <li>・ 今年度はインスタ開設もあり、広報機会が増え、家庭連絡は必要に応じて学年で行われている。昨年度から欠席連絡のオンライン化も評価は良いと捉える。地域と連携した行事もいくつかあり、充足している。校内規定の公表や学年通信の配布頻度、配布方法について再考の余地あり。きずなネットで学年から連絡配信を検討してもよい。</li> <li>・ ホームページやインスタグラムがこまめに更新されており、情報発信できていると感じる。</li> <li>・ きずなネットを通じて家庭への連絡を行えているように感じる。</li> <li>・ きずなネットや学校のホームページを使用することで、学校の情報を保護者へ速やかに伝えることができていると思います。必要に応じて電話連絡や面談を実施することで、細やかな連携が取れていると思います。探究や文化部の活動を通して、地域の行事に積極的に参加できていると思います。</li> <li>・ SNSの活用などで積極的に行っていた。</li> <li>・ 学年通信は各学年とも年間10枚以上発行しており、十分な頻度だと思う。</li> <li>・ 何かあった際は小さな事でもしっかりと家庭連絡を行っていると思う。</li> <li>・ ゆめいくでのイベント実施や南消防本部をお招きする防災訓練など地域との連携を図った行事はしっかり行われていると思う。</li> <li>・ 欠席連絡にオンライン化が追加されたことが良かったと感じる。</li> <li>・ 緊急時や行事などの連絡がきずなネットにて行われているが、もっと学年ごとの連絡（学年通信など）に使っても良いのではないかと。</li> </ul>	

分野	評価内容	評価					学校の取り組み状況・改善の方策	学校関係者評価
		R7 教職員	R7 保護者	R7生徒	R6	R5		
⑧安全安心な学校生活	・ 校内の環境整備の適切な実施	3.9	4.1	3.8	3.5	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算の問題はあると思うが、適宜設備の更新はされている。雨漏りだけなんとかなれば、とは思う。各教員が、生徒の生命を預かっているということを強く意識して日々の業務を遂行することが求められる。</li> <li>・老朽化した部分を順次修繕等行っているが、建物が古いため追いつかない。生徒の様子の把握は学年を中心に行われ、学年会で共有されている。人数が少ないので、すべての空間を使用せず、特別教室等1Fトイレや屋上へ上がる階段付近など、使用しないスペースを明確に切り分けても良いかと。使用されていない机等が通路に放置されているケースが散見されるので、廃棄することを検討。</li> <li>・一部改修などされているが、老朽化が進んでいると感じる。</li> <li>・私服登校可能な期間を設けるなど、生徒や地域の実情を反映した取り組みができています。</li> <li>・年3回のいじめアンケートや教育相談の実施など、生徒が安心して過ごせる制度があると思う。一方で生徒がいじめアンケートなどを形式的に行っていないか心配することもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振興協議会等を通じて、県への要望を継続していきます。</li> <li>・防災訓練は常にアップデートし、想定外を生まないように。</li> <li>・いじめはどこかで起こり得るものなので、早期発見の体制を築く事。</li> <li>・施設の老朽化や、人員・予算面での課題もあると思いますが、今後も安全な教育環境の維持に向けた取り組みを進めていただくことを応援しています。</li> </ul>
	・ 防災や生徒の安全への配慮	3.9	3.9	4.0	3.6	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練や避難経路の確認を実施し、有事の際の最低限の備えはできていると思いますが、さまざまな想定のもと、避難訓練を実施する必要があると思います。いじめアンケートによるいじめの現状把握だけでなく、生徒の普段の様子や相談を受けて対応できていると感じています。いじめの予防は、普段から生徒の言動に注意を配るほか、教員自身も言動に気を付ける必要があると思います。</li> <li>・定期的ないじめアンケートの実施、生徒向けの熱中症対策講座などの実施</li> <li>・雨の日に廊下が滑りやすくなるので、滑り止めのコーティングや滑り止めのテープなどを導入してもらえないでしょうか。</li> <li>・生徒数が年々減少する中、掃除分担内の活動が厳しくはなるが、時間いっぱい掃除をするという意識を持ち、校内美化に取り組む必要があると思う。</li> <li>・冷房、暖房時の教室内の空気環境の調整が難しい。検査や改善を行い検証しながらよりよい環境づくりに向けて取り組んでいきたい。</li> <li>・生徒が自身の心との向き合い方を考える機会をキャンパスカウンセラーや外部講師の協力を得ながらつくってきたい。</li> <li>・生徒にとっても親身に対応する先生が多いと思う。</li> <li>・校内設備の修繕等が行われているが、修繕できないところもあるよう。そのため、根本的な解決には至らないが、悪くならないように対処はされている。</li> <li>・いじめ等の予防については、いじめアンケートを定期的の実施されている。</li> <li>・人数不足によって清掃の行き届かない場所や使用していない教室などの運用については考えるべき。</li> <li>・安全安心な学校づくりをするという事は分かりますが、各教室にそんなに施設しなくてもいいようなところも施設してあるのでなぜ施設しているのかよくわからない。例えば、小会議室、相談室は別に施設しなくてもいいのではないかと思います。</li> </ul>	
	・ 生徒の心身の状況把握及びいじめ等の予防への対処	4.2	4.1	4.1	4.0	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急なことに助け合い、休暇も取りやすい雰囲気になってきていると思う。特定の時期に一人に負担が集中することがあるので、各部署での連携やサポートが必須だと考える。</li> <li>・職場の明るい雰囲気がいいと思う。</li> <li>・学年内の連携や意思疎通が図られ、休暇など取りやすい環境にあると感じる。</li> <li>・部活動がそれほど活発ではないので、18時には仕事を終えて帰ることができている。</li> <li>・産休・育休がとりやすい雰囲気、教員どうしがカバーし合う体制がとれていると感じています。しかし、部活動等で休日が少ない先生もいらっしゃるの、一部の先生だけでなく、全体で部活動の在り方について考える必要があると思います。</li> <li>・家庭の都合、体調の面で休みを取らせていただくことが多々あるが、ほかの先生方に対応していただきありがたいです。一部の先生に負担が偏らないよう気を付けたいです。</li> <li>・年次休暇等、取りやすい環境ではあるが、一部教員への負担が大きくなっている部分があるのではないかと。</li> <li>・自分自身だけでなく、他者を含めた全体のワーク・ライフ・バランスを意識していきたい。</li> </ul>	
⑨働きがいのある学校づくり	・ ワーク・ライフ・バランスや働きがいのある職場づくり	3.9			3.9	3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急なことに助け合い、休暇も取りやすい雰囲気になってきていると思う。特定の時期に一人に負担が集中することがあるので、各部署での連携やサポートが必須だと考える。</li> <li>・職場の明るい雰囲気がいいと思う。</li> <li>・学年内の連携や意思疎通が図られ、休暇など取りやすい環境にあると感じる。</li> <li>・部活動がそれほど活発ではないので、18時には仕事を終えて帰ることができている。</li> <li>・産休・育休がとりやすい雰囲気、教員どうしがカバーし合う体制がとれていると感じています。しかし、部活動等で休日が少ない先生もいらっしゃるの、一部の先生だけでなく、全体で部活動の在り方について考える必要があると思います。</li> <li>・家庭の都合、体調の面で休みを取らせていただくことが多々あるが、ほかの先生方に対応していただきありがたいです。一部の先生に負担が偏らないよう気を付けたいです。</li> <li>・年次休暇等、取りやすい環境ではあるが、一部教員への負担が大きくなっている部分があるのではないかと。</li> <li>・自分自身だけでなく、他者を含めた全体のワーク・ライフ・バランスを意識していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良い取組内容と思います。今後もしっかり取り組んでほしいです。</li> <li>・他の職員への気遣いがあり、良い職場環境だと思います。</li> <li>・良い職場環境だと思います。</li> </ul>